



サッカーを楽しむ子どもたち

参加者にアドバイスを送る貝瀬コーチ



まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

「おじゃビンゴ」を体験する子どもたち



ら大人まで夢中になれる様々なスポーツを、来場者は心行くまで楽しんでいました。

「おじゃビンゴ」体験も

スポーツの秋 全力で楽しむ

15競技以上のスポーツが体験できる「やわたスポーツカーニバル2025」が10月19日、市民スポーツ公園・市民体育館で開催。親子連れなど約1180人が来場しました。「やわたスポーツカーニバル」は、2021年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に市、教育委員会、スポーツ協会によっ

て企画され、今年で5回目の開催。京都サンガF.C. コーチ陣がアドバイスグラウンドでは、貝瀬剛さんら5人の京都サンガF.C. コーチ陣によるサッカー教室が開催。参加者は、ドリブルや試合形式で技術

や戦術を学びました。試合中、貝瀬コーチは「仲間の特性をよく考えて、いい声掛けをしてください」とプレーを見ながらアドバイスを送っていました。体育館ではシートに書かれたマス目を狙ってお手玉を投げ、縦横斜めにそろえて競う「おじゃビンゴ」などの体験も実施。子どもか



ライトアップされた石清水八幡宮

鎮守の杜ナイトウォークinやわた 初開催

石清水八幡宮で過ごす秋の夜長

10月11日～13日に、石清水八幡宮の本殿や参道、境内各所をライトアップする「鎮守の杜ナイトウォークinやわた」が開催され、市内外から約3000人が訪れました。初開催となる同イベントは、市や市観光協会などで組織する鎮守の杜ナイトウォーク実行委員会が主催。大阪・関西万博後も見据えた継続的な賑わい創出のため、歴史的資源を活用した文化観光まちづくりをPRしようと企画されました。

参加者はライトアップされた石清水八幡宮本殿や竹細工のランプで明るく照らされた参道をゆっくり鑑賞したり、写真に収めたりと普段は見られない幻想的な雰囲気を楽しんでいました。さらに、会場にはキッチンカーの出店のほか、駅前ではやわたブランド「ヤワタカラ」の商品も販売。参加者は、石清水八幡宮参道ケーブル等で移動しながら、秋の夜長を満喫していました。

「ずいきみこし」掛け声響く

御園神社秋祭

例年10月の第2日曜日に上奈良地区で開催されている収穫への感謝と五穀豊穡を祈る御園神社秋祭。今年は10月12日に、京都府登録無形民俗文化財に登録されている「ずいきみこし」の巡行や舞の奉納などがあり、地域の子どもの楽しい声が響きました。奈良時代、野菜を朝廷に献上していたことにちなんで作られたとされる「ずいきみこし」。この日のために、区内の老人会「御園ク

ラブ」が、自分たちで育てて収穫したズイキ（サトイモの茎）を始め30種類以上の野菜を使いみこしを2日間で飾り付けました。法被姿の大人や子どもたちが元気の掛け声を響かせながら区内を巡行し、同神社へ向かいました。境内到着後「いっぺん笑えー」などの掛け声で、氏子らが「ワハハ」と三唱。続いて、天狗の面をつけた子どもの「王の舞」と若者2人の「獅子舞」が奉納され、大人がみこしを担いで境内を往復し、集まった観客から歓声が上がっていました。



境内を往復する「ずいきみこし」を担いで

今月のこの人

「ボッチャ大好き」京都に協会設立



龍谷大学法学部卒業。社会福祉法人に就職後、トヨタカローラ京都(株)に転職。令和元年に京都ボッチャ協会を設立。同協会副会長。市内在住。

田中孝洋さん

「定年退職後は毎日ボッチャをして過ごしたい。それくらいボッチャが大好きなんです」と率直な気持ちを話すのは、京都ボッチャ協会副会長の田中孝洋さん。平成28年から勤務先のイベントをきっかけにボッチャを始めた田中さん。次第にたくさんのオファーが届くようになり、令和元年に京都障害者スポーツ振

興会等の協力を得て、京都ボッチャ協会を設立しました。ボッチャは、目標球に赤と青の球を投げ合い、いかに近づけるかを競うスポーツですが「頭脳戦でもあるスポーツ。誰でもヒーローになれるチャンスがある」と田中さん。「あるイベントで女の子と車いすの男の子と一緒に遊んでいた姿がとても印象的で、誰でも楽しめるのが一番

の魅力」とも話す田中さんは、府内の体験会等に出向き、競技の面白さを伝えています。最近は腕の立つ選手も増えており「運営を支える協会員も増やしたいが、審判のレベル向上も必要」と話します。田中さんは11月8日の八幡市障がい者スポーツ大会に審判員として参加します。「ご家族などたくさんの人に参加いただき、一緒にボッチャを楽しみましょう」